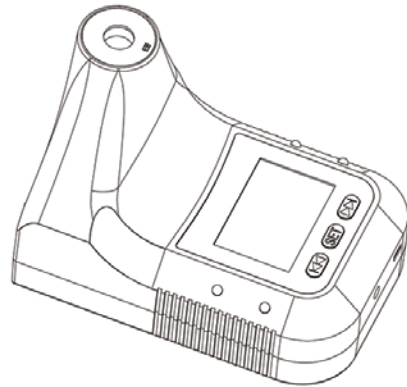


赤外線温度計ユーザーガイド



Model: K3 Pro

3.常温:
両側に緑色のライトが点滅



(図3)

4.異常温度:
両側に赤いライトが点滅



(図4)

5.範囲外(ボディモード)
*Lo: 摂氏35度よりも低温 (図5)
*Hi: 摂氏42度よりも高温 (図6)



(図5)

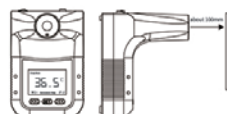


(図6)

5.操作説明書

1.温度測定:

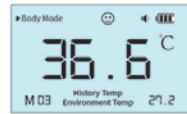
温度計の正面、5~10cm以内に近づきます (図7)



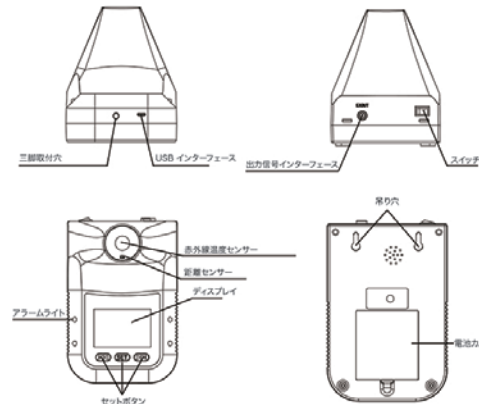
(図7)

2.履歴温度クエリ:

左右のボタンを押して履歴温度を開示します。Mは現在の履歴温度を表します。デバイスは現在、最大30の履歴温度をサポートしています。



1.はじめに



2.仕様

- 1.精度: $\pm 0.2^{\circ}\text{C}$ (35~42 $^{\circ}\text{C}$ 、設置し使用する前に30分間置いてください)
- 2.アラーム機能: 異常自動アラーム、約10秒間のフラッシュ+サウンドアラーム
- 3.測定距離: 5cm~10cm
- 4.ディスプレイ: LCDディスプレイ
- 5.伝送インターフェース: USB Type C
- 6.適応可能な電源: 単三電池4本 (外部電源と内部電源)
供給を切り替えることができます
- 7.取り付け方法: フック、ブラケット固定
- 8.環境温度: 10 $^{\circ}\text{C}$ ~40 $^{\circ}\text{C}$ (推奨15 $^{\circ}\text{C}$ ~35 $^{\circ}\text{C}$)
- 9.測定範囲: 0~50 $^{\circ}\text{C}$
- 10.応答時間: 0.5秒
- 11.スタンバイ: 非移動時間中の30秒の自動スタンバイ
- 12.入力: DC 5V 500mA
- 13.重量: 303g
- 14.寸法: 170X115X140mm
- 15.カウント容量: 9999回

-1-

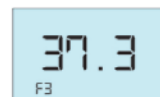
3.温度単位設定: (温度単位設定)

SETボタンをF1に押し、左右のボタンを押して摂氏と華氏を切り替えます。C: 摂氏 F: 華氏



5.アラーム温度設定:

SETボタンをF3にすると、ボディモードのアラーム設定状態になります。左右のボタンを押して、アラーム温度を37.0~38.0に切り替えます。デフォルトは37.3 $^{\circ}\text{C}$ です。
注: アラーム温度はボディモードでのみ有効です。



7.バックライト設定:

SETボタンをF5に押し、バックライトの設定状態になります。左右のボタンを押して、バックライトをオンまたはオフにします。
オン/バックライトをオンにします
オフ/バックライトをオフにします



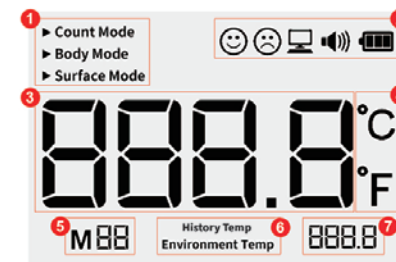
9.出力信号設定:

SETボタンをF7に押し、左右のボタンを押して出力信号の種類を切り替えます。S1はスイッチモードを表し、S2はI/V/Iモードを表します。出力信号の詳細については、出力信号のユーザーガイドを参照してください。



-5-

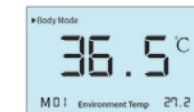
3.表示の説明



1. 作業モード: カウントモード、ボディモード、サーフェスモード。
2. ステータス表示: 式、USB接続ステータス、音量、電源。
3. 測定結果: 温度状態またはカウント状態。
4. 温度単位: 摂氏または華氏。
5. 設定項目または履歴レコード: Mは履歴レコード番号を示します。Fは設定項目番号を示します。
6. 履歴温度または環境温度。
7. 環境温度ステータス。

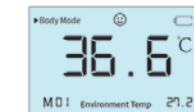
4.状態の説明

1.スタンバイ:
バックライトがオフになり、
温度は表示されません。(図1)



(図1)

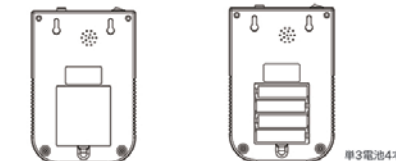
2.不十分な電力:
ディスプレイはバッテリーが
空になり、アイコンが点滅します (図2)



(図2)

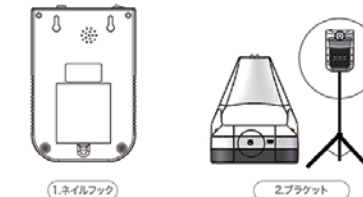
11.電池の取り付け:

バッテリーカバーを開き、電池の極性に応じて取り付けます。



単3電池4本

12.取り付け方法: フック or ブラケット



1. ネイルフック

2. ブラケット

6. 警告

1. デバイスが正常に動作できるように環境を確認してください。
2. 動作環境を変更する場合は、デバイスを30分程そのままにしておく必要があります。
3. 眼を体温計に近づけず測ってください。
4. 屋外で使用する場合は直射日光を避けてください。
5. エアコンやファンなどに近づけないでください。
6. 安全性が確認できるバッテリーをご使用ください。
液漏れ、サビ等安全が確保されていないバッテリー、
または充電式バッテリーを使用しないで下さい。火災や爆発の原因となることがあります。

-6-